

倉本聰と点描画

北海道富良野を拠点に数多くのテレビ、映画の名作を世に送り続けてきた脚本家倉本聰は、10数年に渡って“木”の点描画を描き続けてきました。木一本一本にドラマを見出して点描画を描いてきました。作品は全て、スケッチブックに細いペン先で無数の点を打つという繊細な点描の手法によって描かれており、その総数は600点を超えます。

倉本は、森とは無縁の東京で生まれ、東京育ち。学校も仕事も東京でしたが、39歳の時に書いた大河ドラマ『勝海舟』でNHKと衝突。東京を捨てて札幌に移りました。

元々豊かな森の中で暮らしたいと思っていた倉本が終の棲家として探し当てたのが富良野の天然林の中。今から50年前のことです。以降、倉本はこの森の中に居を構え『北の国から』などのテレビや映画、舞台の数多くの名作を作り続けてきました。その多忙な仕事の合間をぬって描き続けたのが“木”の点描画でした。

木の点描画とそれに添えられた“森のささやき、を見ながら思わずクスッと笑ってしまう、思わずホロッとしてしまう、そんな「倉本ワールド」の点描画のジークレー作品・ポストカードなどを今回大丸藤井セントル様にて期間限定で販売致します。

倉本聰点描画の他にも、倉本聰が作り出したドラマグッズや書籍など数多く取り揃えています。

今回販売されている書籍は殆んど一般書店での取り扱いはございません。

この機会に是非ご覧ください。

一般財団法人 倉本財団